

平成 25 年 6 月の地震活動及び火山活動について

平成25年 6 月の地震活動及び火山活動について解説します。

【地震活動】

・全国の地震活動

震度 5 弱以上を観測した地震及び津波を観測した地震はありませんでした。

全国で震度 3 以上を観測した地震の回数は 15 回、日本及びその周辺における M4.0 以上の地震の回数は 79 回でした。

震度 3 以上を観測するなどの主な地震活動の概況は別紙 1 のとおりです。また、世界の主な地震は別紙 2 のとおりです。

・「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」の余震活動

「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」の余震は、次第に少なくなってきたものの、最大震度 4 以上を観測した地震が 1 回、震度 1 以上を観測した地震が 75 回発生するなど、引き続き岩手県沖から茨城県沖の広い範囲で発生しました。

国土地理院の G N S S※連続観測結果によると、引き続き東北地方から関東・中部地方の広い範囲で、徐々に小さくなってきてはいますが、余効変動と考えられる東向きの地殻変動が観測されています。

（余震の見通しについて）

余震は、全体的には次第に少なくなってきましたが、本震発生以前に比べて依然として活発な地震活動が続いており、今後も継続すると考えられます。M7.0 以上の大きな余震が発生する可能性は低くなってきましたが、まれに大きな余震が発生することがあり、最大震度 5 弱以上の強い揺れや、海域で発生した場合には津波が発生する可能性があります。また、比較的小さな余震でも、沿岸域や陸域で発生すると震源付近では強い揺れになることがあります。なお、余震は広い地域で発生しているため、同じ規模の余震でも発生する場所により各地の震度は異なります。

（防災上の留意事項）

引き続き余震による強い揺れに警戒してください。また、これまでの強い揺れのために地盤がゆるんでいる地域では、降雨や余震による土砂災害の発生する危険性が高まっていますので、併せて警戒してください。

また、海域で大きな余震が発生すると津波が発生する可能性があります。海岸で強い揺れを感じた場合、また、揺れを感じなくても津波警報が発表された場合には、直ちに海岸から離れ高台等の安全な場所に避難してください。

余震域の外側も含めて、常日頃から地震への備えをお願いします。

[火山活動]

霧島山（新燃岳）では、今期間、噴火の発生はありませんでした。火山性地震は少ない状態で経過し、地殻変動観測に特段の変化はありませんでした。新燃岳の北西数 km の地下深くにあると考えられるマグマだまりへの深部からのマグマの供給は停止した状態が続いています。しかし、火口には多量の溶岩が溜まっており、現在でも小規模な噴火が発生する可能性は否定できません。火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）が継続しており、新燃岳火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

桜島では、爆発的噴火を含む噴火活動が継続しました。火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）が継続しており、昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。

薩摩硫黄島では、3 日から 5 日にかけて硫黄岳でごく小規模な噴火が時々発生しました。これに伴い、4 日 09 時 50 分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを 1（平常）から 2（火口周辺規制）に引き上げました。6 日以降、降灰は確認されておらず、火山性地震も少ない状態で経過しました。硫黄岳火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う大きな噴石に警戒してください。風下側では降灰に注意してください。火山周辺では、火山ガスに注意してください。

十勝岳では、9 日 20 時 30 分頃から 23 時 10 分頃にかけて、大正火口付近が高感度カメラで明るく見える現象が観測されました。同現象は火口内での高温の火山ガスの噴出や硫黄の燃焼等によるものと推定されます。この現象の前後で、その他の観測データに特段の変化はありませんでした。7 月 3 日（期間外）にも同様の現象が観測されました。火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められませんが、今後の火山活動の推移に注意して下さい。

八甲田山では、東北地方太平洋沖地震（2011 年 3 月 11 日）以降、八甲田山周辺を震源とする地震が増加した状態で経過しています。また、2013 年 2 月以降、山頂付近が震源と考えられる火山性地震が散発的に発生しています。山頂付近の地震活動は、4 月下旬以降、やや増加傾向となっており、今期間もやや多い状況で経過しています。山体周辺の地殻変動観測では 2013 年 2 月頃以降、小さな膨張性の地殻変動がみられます。表面現象に変化はみられませんが、今後の火山活動の推移に注意してください。

その他の火山の活動状況に特段の変化はありません。

日本の主な火山活動の概況は別紙 3 のとおりです。また、世界の主な火山活動は別紙 4 のとおりです。

注 1：噴火警戒レベルには、レベル毎に防災機関等の行動がキーワードとして示されており、導入にあたっては、噴火警戒レベルの活用が地域防災計画等に定められることが条件となります。

注 2：国土地理院の G N S S による地殻変動観測については、国土地理院ホームページの記者発表資料「平成 25 年 6 月の地殻変動について」を参照願います。

<http://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/2013-goudou0708.html>

注 3：気象庁の地震活動資料には、気象庁、防災科学技術研究所及び大学等関係機関のデータが使われています。

注 4：地震活動及び火山活動の詳細については、地震・火山月報(防災編)平成 25 年 6 月号をご覧ください。

注 5：平成 25 年 7 月の地震活動及び火山活動については、平成 25 年 8 月 8 日に発表の予定です。

※G N S S（Global Navigation Satellite Systems）とは、G P Sをはじめとする衛星測位システム全般をしめす呼称です。